

作／田口浩一郎

傾斜空間 第四回公演

メトロポリタン  
CT.

舞台上にインド人登場。手に手紙を持って、読みながら花道を入場。背後には機関銃を構えたぼろぼろの身なりの男がびったりと従っている。機関銃はインド人に突きつけられている。

インド 世界には恵まれない人がいっぱいいるのよ。ママは私にそう言ったの。でも恵まれないっていうんだったら私の家族も負けていません。パパはいつも家でウイスキーばっか飲んで、ママとあたしをひっぱたきます。ママは朝早く仕事に出かけて、夜遅く帰ってきます。私は最近学校に通い始めました。字が書けるってとっても楽しいね。今日もパパはファックファックと言ってママを蹴っ飛ばして出かけていきました。そのあとは私もママにひっぱたかれます。今にお前もあの男に犯されたらいいといいます。今日、学校で先生がユセフのことを教えてくれました。ウチにあるオートミールは明日の朝にはなくなってしまう。私は今、とってもお腹がすいているのです。お願いです。ユセフのおにいさん、私を助けてください。お願いします。

曹長 黙れ。

インド はい。

曹長 左を向け、三步前進、壁に手をつけ。

インド はい。

インド、言われたとおり壁に手をつく。曹長、インドの体に武器がないか調べ始める。

曹長 痩せてるな。

インド はい。

曹長 どこから来た。

インド インドです。

曹長 インドから何しに来た。

インド …だからさつきから。

曹長 恵まれない子供に愛の手をか？

インド そうです。

曹長 いい加減にしろ、インド人に同情されるほど落ちぶれてねえ。

インド …。

曹長 インドから来たって事はインディアンか。

インド いや、そう言えなくもないですけど…。

曹長 痩せてるなあ。

インド …。

曹長 インドにやろくな食い物もないのか。

インド ありますよ、食べ物くらい。

曹長 どうせあれだろ、ナンだろ。

インド いや、それ以外にもありますよ。

曹長 うるさい。インド人が食うのはナンと決まってるんだよ。

インド …。

曹長 アメリカは楽しいか？

インド さあ、あまり見て回ってないので。

曹長 じゃあ、ゆつくり観光しろ。

インド ？

曹長 解放してやるよ。武器も持ってねえしな。

インド あ…ありがとうございます。

曹長 二度とここに近寄るなよ。近寄ったらスパイとみなして本当に撃ち殺すぞ。

インド はあ。

曹長 じゃあな。仲間のインディアンにもよろしく言ってくれ。

曹長、立ち去ろうとする。インド、曹長にぴたりくっついていく。

曹長　なんだ。何の用だ。

インド　メトロポリタン・コートつていのはどの辺ですか？

曹長　メトロポリタン・コート？

インド　はい、5N388メトロポリタン・コート、自由と平等兄弟社社員寮です。

曹長　そりゃあ…。

インド　…。

曹長　ここだよ。

照明、C.O.ここで映像(オープニング)、C.I.引き続いて映像、自由と平等兄弟が現れる。自由と平等兄弟、二人とも眼鏡をかけ、ドーナツを食べている。引きこもりっぽい、ややぼそぼそとしたしゃべり方をし、ファッションははつきり言って洗練されていない。

自由　こなさーん。

平等 みんぱんわー。

自由・平等 自由と平等兄弟です。

自由 兄のリベルテです。

平等 弟のエガリテです。

自由・平等 自由と平等兄弟です。

自由 今日はみなさんにお知らせがあります。

平等 なにかな、なにかな。

自由 なんと我々自由と平等兄弟社は、今年で創立15周年を迎えます。

平等 サプライズ！

自由 昨年は我が社の新製品、新世紀多機能OSカラシニコフが市場を席巻！

平等 席巻！

自由 株式市場においてもナスダック1部上場！

平等 ナースダック、JOJO！

自由 もうすべて上手く行き過ぎて恐いくらいだね。

平等 そうだね、兄上！そうだね！

自由 で、この記念すべき年、我々は更なる躍進を目指して、新たな改革を断行することに

決定しました！

平等 決定！決定！（決定と書いた藁人形を背後の壁に打ち付ける）

自由 なんと、経費大幅削減のため、アメリカ国内のパッケージ工場は、すべて南米はベネズエラに移転します。

平等 ダウンサイジングへようこそ！

自由 というわけで、アメリカ国内の工員の皆さん、お疲れ様でした！

平等 した！

自由 あなたがたには、リストラという長期休暇を差し上げます！

平等 うらやましい！

自由 身のふり方はご自由に。

平等 フリフリフリフリフリーダム！

自由 パンがなければ…。

自由・平等 ケーキをお食べええ！

映像、C. O。照明C. I。

曹長 まあ、そのへんに座れや。

インド はい。

曹長 腹へってねえか？

インド いや、別に。

曹長 そう言うな。外国から客が来たつてのにメシの一つも食わせないんじゃあアメリカ人の名折れだ。

インド そうですか、じゃあ…。

曹長 ビーフジャーキーとチャイニーズフード、どっちがいい？

インド は？

曹長 いや、だから Beef Jerky とチャイニーズフード。

インド あ、じゃあチャイニーズフードで。

曹長 なんだ、最高だぞアメリカの Beef Jerky は。

インド 私、ヒンズー教なんで牛はちよつと。

曹長 なんだ、そうなのか。

インド チャイニーズフードで。

曹長 そうかそうか、うまいぞお、アメリカのチャイニーズフードは。ないだろ、インドにはチャ

イニーズフードなんて。

インド いや、そのくらいは…。

曹長 あんの？インドに？

インド ああ、はい。

曹長 はつ、インドのチャイニーズフードなんてどこの国の食いもんだよ。

インド アメリカのチャイニーズフードだつて…。

曹長 よし、じゃあお湯入れたから3分待て。

インド はい。

曹長 よし、じゃあ待つてる間ビーフジャーキーでも食おうかな。

インド 結局両方食べるんですね。

曹長 しかし、子供かあ。

インド あ、はい。

曹長 いないぞ、ここには子供なんて。

インド そんなはずはないんです。ほら(エメールを差し出す)。

曹長 ああ、ホントだ。

インド 明らかに子供の字でしょう。

曹長 ああ……でもなあ、見ろよこの有様。

インド ああ……ええ。

曹長 ここはもうとつくに閉鎖しちまつてな。子供のいる家族なんて真っ先に出て行つたからよお。

インド そうなんですか。

曹長 出てつた家族の子供なんじゃねえの。

インド そんな……せつかくここまで来たのに。

曹長 ご苦労だったな、はるばるインドから。

インド 出てつた家族の行方は分からないんですか？

曹長 無理なこと言うなよ。俺この管理人じゃないんだからさあ。

インド え、そうなんですか？

曹長 見りゃあ分かるだろ。

インド ああ、まあ。

曹長 ただ管理してるとは言えるな。怪しいやつが来たらこいつ(ライフル)で頭スツ飛ばしてやるぜ。

インド ああ、そうですか。

曹長 お前、運がいいよ。白人だったら撃ち殺してたかもしれないねえ。

インド あのお。

曹長 うん？

インド あなたはここで何をやってるんですか？

曹長 おう、いい事聞いてくれたな兄弟。俺はここでストライキやってんのよ。

インド ストライキ？

曹長 おう、辞めるのをやめるストライキよ。

インド ……どういうことですか？

曹長 いや、だからさあ、普通のストライキってのは仕事するのをやめちゃうんだろ、一時的にさ。

インド ああ、そうですねえ。

曹長 俺の場合は会社が仕事を辞めろと言ってきたんでその反対をやってやってるのよ。

インド ……つまり。

曹長 クビになったんだよ、3ヶ月前。

インド ……。

曹長 俺だけじゃねえ。この工場に勤めてた奴は全員クビになった。

インド 全員？

曹長 ああ、閉鎖したんだよ工場が。

インド ああ、それでこんな…。

曹長 この町の人間はほとんどがこの工場に雇われてるか関係した仕事してたからよ。…  
街の様子もひどいもんだろ？

インド ええ、ここに来るまで誰にも会いませんでした。

曹長 ここで働いてたのは字も才能もない貧乏人ばかりだからよ、まあソレ見込んで会社のほうも工場建ててるんだが…工場が移ったら俺たちやホームレスにでもなるほかないってわけだ。

インド 工場はどうして移ったんですか？

曹長 知らねえなあ…どっかに見つけたんじゃないやねえの、俺たちより貧乏で安くこき使える連中をさ。

インド …じゃあこの手紙の娘も…。

曹長 ああ、とつくに置屋かなんかに売り飛ばされてるかもしれないねえな。ひよつとしたらもう臓器かなんかにバラされてたりして。

インド うわあああ、僕のせいだあ！

曹長 おう、反省しろ反省しろ。はははは。チャイニーズフード、できたぞ。

インド スイマセンでしたあ！

曹長 おい、伸びるぞ、チャイニーズフード。

インド ……

曹長 まあ、あれだ、その娘のことは残念だった。

インド まだ死んだと決まったわけじゃ！

曹長 死んでも同然だよ。オートミールを買う金もない。おまけに親父は娘のことなんかひと欠けも愛しちやいねえ。こういうのは売春婦か移植用の臓器になるかどつちかしかないんだよ。

インド もう少し早く来てれば…。

曹長 いいねえ、俺弱いんだよねえ、そういう正義感。インドの未来も明るいな。

インド ちくしょう、ちくしょう。

曹長 悔しいか。

インド 悔しいですう。

曹長 お前、子供好きなんだな。

インド ニセフェですから。

曹長　じゃあ、ひとつ吊い合戦といこうじゃないか。

インド　は？

曹長　俺に力を貸せ。

曹長とインド人、舞台の横においてある箱から大量のパッケージを取り出す。その間、スクリーンには映像が映し出される。

マイケルみなさん、こんにちは。マイケル・J・ムーアです。今まで好評を頂いてきたこの番組なんだけど、今回からアメリカの大富豪、政治家なんかをアポ無しで直撃、隠し撮りするイヤガラセ企画を展開しようと思います。名づけて公開処刑ライダー24。さあ、アメリカを代表するセレブリーターの口から、どんな珍発言が飛び出すのか。こいつは見ものだね。

マイケルのPVが流れる。ヘルメットにスウェット、ママチャリといういでたちで、マイケルが町を爆走する。その映像の最中、二人パッケージを作りはじめる。

曹長 こいつを呼ぼうと思ってるんだ。

インド 誰ですか？この人。

曹長 知らないのか？マイケル・J・ムーア。

インド ええ。

曹長 ほら、政治家だとか企業の犯罪を暴くんだよ。テレビで。

インド へー。

曹長 もう手紙も送った。

インド なんか、頼りになるんですか、この人。

曹長 何だお前、疑ってるのか？

インド そうじゃないですけど。(リモコンの停止を押す)

曹長 あ。

インド なんかここ、普通のテレビやってないんですか？

曹長 閉鎖の翌日に映らなくなった。

インド ふーん。

曹長 まあビデオは見られるしな。ニュースが知りたきやそこにラジオがあるからよ。

インド あの…。

曹長 おう。

インド 弔い合戦ってこのこと(パッケージ作業)ですか？

曹長 そうだよ。

インド ……

曹長 なんだ、不満か？

インド これ、一体何の意味があるんですか？

曹長 だからさあ、さつき説明しただろうが。

インド ストライキ？

曹長 そうだよ。

インド ホントに効果あるのかなあ。

曹長 あるよ、俺達がここに居座ればやつらはこの施設を撤去できない。意地でも働いてればそのうちメディアも注目する。

インド そう上手いききますか。

曹長 いくよ。

インド 警察かなんかが来て逮捕されるのが落ちのような気がするけど。

曹長 そのときは俺がポリ公のドタマをこいつで……(銃をインドに向かって構える)。

インド もう物騒ですからしまつてくださいよ。一体何挺持つてるんですか。

曹長 いっぱい。

インド アメリカは銃社会だと聞いてましたが……聞きしに勝るなあ。

曹長 夜逃げしたグローサリーの倉庫にゴロゴロ落ちてるぜ。お前の分もあとで持つてきてやるよ。

インド いいですよ。かつばらいじゃないですか。

曹長 人聞きの悪いこというな。リサイクルだよ。

インド 普通じゃないですよ、その辺で銃がホイホイ拾える国なんて。

曹長 インドじゃ拾えないのか？

インド 拾えません。

曹長 なんだ、遅れてるなあ。

インド 進みたくないですね、そんなところで。

曹長 そんなこと言うなよお(銃口でインドをつつく)

インド うわああああ！

曹長 大丈夫だよ、恐がりだなあ。

インド と、とにかく、その銃はどこか安全な場所に片付けてください。

曹長　なんだ、心細いじゃねえか。

インド　これじゃ仕事にならないですからね。

曹長　銃がなきゃいざつていうとき反撃できないぞ(渋々銃をしまう)。

インド　戦争じゃないんですからね。(立ち上がりダンボールをあさりに行く)

曹長　冗談じゃねえよ、戦場のほうが平和だったね。

インド　従軍経験が？

曹長　ああ、イラクまでな。

インド　へえ。

曹長　といつても俺の部隊は直接戦闘はほとんどなかったからな。退屈だったぜ。

インド　ラッキーでしたね。

曹長　どうだか。俺の戦友が何人かガンで…。

インド　ガン？

曹長　ああ、国に帰ってきた途端次々とさ。

インド　…。

曹長　俺はアレだと踏んでるぜ、ほら、劣化ナントカ弾とかつて…。

インド　ウラン。

曹長 おう、それぞれ。これこそ何とかしてくれよ。ユニセフさんよお。

インド それは、ぜひ！

インド、振り返る。すると曹長の前には大量の武器の山ができあがっている。

曹長 ベレッタも片付けたほうがいいか。

インド ……何でもいからしまつてくださいよ。

曹長 そうか…。(ポケットにしまおうとする)

インド そこじゃなくて…。

曹長 なあ、いいだろ、ベレッタぐらいさあ。

インド そんなに不安なんですか？

曹長 ああ、手元にガンの1挺もないと落ちつかねえ。

インド 病気ですね。

曹長 お前こそ病気だよ。外国まで来て丸腰でいられるなんて頭おかしいんじゃないか？

インド お互いに銃を突きつけあつてるから不安になるんですよ。

曹長 どういうことだ。

インド 自分から銃を下ろさないといつか撃たれるんです。

曹長 なんだ、おい。キレイごと言いやがるなあ。

インドキレイごとじゃないですよ。人間ていうのは裏切る生き物じゃないですか。

曹長 違いねえ。

インド 君が撃とうとしないかぎり僕も撃たないと、約束してお互いに銃を構えても……。

曹長 ……。

インド どちらかが必ず撃ちます。隙を衝いてね。

曹長 ふん……なるほど。

インド 分かったらその銃はどこか安全な場所にしまつて置いてください。鍵でもかけて。

曹長 だがよう、インディアン。こうも言えねえか？

インド ……。

曹長 人を裏切るような野郎は大統領が許してもこの俺が許さねえ。そんなヤツはこいつ(何

かしら銃)で全員ぶつ飛ばしてやる。

インド いやあ、ですから……。

曹長 そういう曲がった野郎がいるからいつまでも世の中良くならねえんだ。

インド ……。

曹長 世界に危機が迫った時、武器を取って家族と財産と、そして国を守る。そいつが真のアメリカ人よ。

インド いや、ですからみんながそういう考えだから……。

曹長 安心しろインディアン、俺は裏切らねえ。この俺の銃にかけてな。

インド ああ、もう……。

曹長 分かつたらお前は作業に集中しろ。戦は近いぞ。

インド だから、その精神状態がそもそもおかしいんですよ。

曹長 どういうことだ。

インド なんであなた方みたいな先進国の人間が戦いを前提にして生活しなきゃならないんですか。戦う必要なんてそもそもあなたたちにはないんですよ。

曹長 そりゃインドには取られるほどの財産も無いかもしれないが、ここはアメリカだぜ。

インド 失礼だな。確かにインドは貧乏ですけどね、あなただつて無いでしょう、取られる財産なんて。

曹長 ところがあるのさ、俺たちの想像を超えた貧乏人が。スラムの黒人やラプルトリカンやら食い詰めたスパニッシュ……。

インド ……。

曹長 変な小道に入り込まないほうがいいぜ、連中殺しなんて何とも思っちゃいねえからよ  
お。

インド ……

曹長 それだけじゃねえ、最近は何の分からねえテロ組織がアメリカを狙ってやがる。

インド テロ組織ねえ。

曹長 お前もアルカイダじゃねえだろうな。

インド 僕がアルカイダならあなたは狙いませんね。

曹長 とにかく、悪い奴ら、悪い組織、悪い国がござってアメリカ国民を狙ってやがるのさ。

インド だから銃が手放せない？

曹長 そうよ。

インド 悪い国ですか。

曹長 ああ。

インド どんな国が悪いんですか……？

曹長 そんなのは……お前、イラクとかさ。

インド は？

曹長 イラクとか……イラクとか……イラクとか。

インド イラクばつかじゃないですか。

曹長 ああ……そうだ……昔なら日本とかドイツとかさ……ほら、あんだらう、悪い国がいつばい。そうだよ、タリバンとかな。

インド タリバンは国じゃないですよ。

曹長 ああ、あとソ連か。

インド ソ連は……もうないですよ。

曹長 ああ、そうなのか。どおりで最近聞かねえと思ったよ。

インド 敵の名前もはつきり言えないんですか？

曹長 忘れたよ……数限りなくあるだろう。悪い国は。

インド そいつらが、アメリカの財産を狙ってる？

曹長 おお、もちろん財産だ。それから奴らは自由が嫌いだ。

インド 自由？

曹長 ああ、正確にはそいつらの親玉の独裁者だな。アメリカが次々と仲間の独裁者をぶっ倒して市民に自由を与えるのが気に入らないのさ。

インド ……。

曹長 まったく逆恨みだぜ。だが仕方ねえ、これも世界を救うためよ。

インド …いくらでも出てきますよ、アメリカに都合の悪い国は。

曹長 …なんだ、引つかかる言い方だな。

インド 自由の考え方はその国それぞれなんです。なかには自由が一番の価値じゃない国だってある。

曹長 難しいこと言いやがつて。イイこととして何が悪いんだ。

インド イイこと…？

曹長 そうだよ、貧乏だとかよ、殺されるかもしれない不安で苦しんでる奴らを救い出して何が悪いんだつってんの。

インド そりゃあなたじゃないですか。

曹長 何？

インド 貧乏で…そして殺されるかも知れない不安で銃も手放せない。

曹長 ……。

インド 私は救つてあげたいんですよ、あなたの国の子供たち全部ね。

曹長 ……。

インド 確かに、私の国はひどい状態ですよ。貧乏だし、紛争は多いし、アメリカが言うような自由は私の国には無い。…おこがましいですよ、はつきり言って、私らがアメリカ人救

うなんて。腹立つでしょう？…えつと、お名前…。

曹長 曹長と呼べ。

インド じゃあ、曹長。

曹長 …お、おう。

インド インドの地方の貴族なんてまさに独裁者ですよ。アメリカから見たら。

曹長 …。

インド でもそれが当然なんです。生まれたときから貴族がいて、自分が貧民で。

曹長 許せねえな。

インド ちなみに私は貴族の出身です。

曹長 なんだ、テメエも仲間か。

インド そうですよ、国に帰ればズーと金持ちです。あなたより。

曹長 金持ちが道楽でマザーテレサごっこか、冗談じゃねえな。

インド そうですとも。でも助けに来るだけマシじゃないですかね。

曹長 なに？

インド 助けてくれますか、おたくの国の金持ちは。貧乏なあなたを。

曹長 …。

インド 案外と近くにいるのかもしれないですよ。本当の独裁者は。

曹長 ……

映像映写、それと同時に曹長、袖幕の裏側に入る。映像、紅茶を飲む白髪の紳士が映し出される。画面右下には「公開処刑ライダー24」の字幕。

紳士 やあ、君か。よく来たね。昨日紹介してくれた女の子、なかなかだったよ。うん？君

も一杯いかがかね？要らん？そうか、なら結構。うん、例の計画かね？上手く行ってるよ。いや、施設の撤去が遅れとるんだがね。自由と平等兄弟社だよ。ああ、大統領と引き合わせる便宜を取ってやったらすぐに工場移転に応じたよ。

彼らの狙い？さあ、知らんね。まあ、大方察しはつくが。ああ、今度の独占禁止法の改正を阻止したいんだろう。カラシニコフのシエラの伸びは凄まじいからな。はは、まったく欲深いもんだよ。まだこれ以上金が儲けたいらしい。…そうだな。欲深いってことで私は私も負けてないがね。

ああ、この地域で住民の雇用が安定すると困りものなんだよ。分かるだろう。この辺は我々の生産手段であり、原料供給地であり、また市場なんだからね。貧民の男は

我が組織の構成員となり、女はプロステイテュートとして我々の懐を潤してくれる。また我々の売る麻薬の買い手も生活苦で追い詰められた貧民だ。そうとも、あのメトロポリタンコートを中心として、一つの経済が成り立っているのだ。悪の要素だけで構成された闇のテーマパークがね。

…うん？悪人か、ははは。その通りだな。だが私がやらなくても誰かがやるさ…何せその悪をアメリカ人自身が望んでいるんだからね。私は彼らが倒すべき悪を演じているだけ。ちよいと高いギャラをもらってはいるが。コントロールされた悪はこの国を支える構造なのだよ。悪は、貧民に貧民らしく、分をわきまえさせる。危険なのは真の自由と平等さ。そんな意識に目覚めた大衆こそこの国に混乱と殺戮をもたらすとは思わないかね？悪をコントロールすることによって、善もコントロールされるのさ。どうだい、今夜あたり我々のテーマパークに繰り出さないかね。引き合わせたい男がいるんだよ。彼はそこで自分の悪をコントロールして、反吐が出るようなアメリカの偽善と毎日向き合っているのさ。まあ、私には真似できんがね。

映像が切れると同時にインド、仕事を始める。曹長、袖幕の裏側から出てくる。その手には一通の手紙が握られている。

曹長 おい。

インド 次のやつはその辺おいといてください。

曹長 おい、何か見つけちゃったぞ。

インド 何を。

曹長 ちよつと、寝覚め悪くなつちまうもんだよ。

曹長、手に持った手紙をダンボールの机に放り投げる。インド、拾い上げて読む。

インド ごきげんいかがですか、ユニセフのお兄さん(インド、曹長の顔を見上げる)。私はお引

越しをすることになりました。パパの仕事がなくなってしまったので、私は一人で暮らすことになりそうです。昨日、いっぱいお金を持ったお兄さんが来ました。私は明日、そのお兄さんと一緒に新しい家に行きます。お父さんお母さんと離ればなれになるのはさみしいですが、新しい家が今から楽しみです。そこにはおいしい食べ物もあるし、友達もいっぱいいるとママが言っていました。だからユニセフのお兄さん、もう助けに来なくても大丈夫です。ユニセフのお兄さんも元気でいてく……？

曹長 途中で切れてんだろ…。

インド この娘…。

曹長 …。

インド 里親かなんかに…。

曹長 そんなわけねえだろうが…。

インド、走り出そうとする。曹長、止める。

曹長 どこ行くんだよ。

インド 決まってるでしょう。この辺の置屋を一軒一軒回って…。

曹長 アホか！半殺しにされるぞ。

インド そうだ、さっきの機関銃貸してください。

曹長 落ち着け！

インド 何言ってるんですか！今、この瞬間、僕に助けを求めてきた子供がひどい目にあってるかもしれないのに！

曹長 この辺りだけで何件売春宿があると思ってるんだ。全部まわるつもりか！

インド 必要なら！

曹長 この辺に連れて行かれたとは限らねえし…第一、お前、子供を返せでどうにかなる相手じゃねえよ…。

インド …。

曹長 …そうだ、頭使え。

インド え？

曹長 お前の実家金持ちだろうが。

インド ええ、まあ。

曹長 どのくらいの金持ちなんだ。

インド どのくらいいつて…もともとは領主なんです。北インドの。

曹長 じゃあ、簡単だろ、小娘一人身請けするぐらい。

インド ！

曹長 俺がこの辺のヤクザにあたりつけてやるから、お前今から金用意しろ。

インド 曹長、頭いい！

曹長 そうと決まったら行動開始だ！

曹長とインド、部屋の片隅で携帯を出し、二人で話し始める。(インド あ、お父ちゃん……うん、元気？……うん、今アメリカ……  
曹長 おう、BJ、なんだ、最近どうなんだよ……おう、おう。それはそうとき……  
みたいな)二人、同時に話し終わる。

曹長 ……

インド ……

曹長 すまなかった。(土下座に近い形で肩を落とす)

インド すいませんでした。(土下座に近い形で肩を落とす)

曹長 え。

インド え。

曹長 ……

インド ……

曹長 ……見つからなかった、結局。

インド ……くれませんでした、お金。

曹長 BJつつつてよ、このあたりの女に関しちやめつぼう詳しいピンプ野郎なんだが、ヤツでも心当たりないらしい……まあ、色々と調べてくれると言ってるが……ヤツでも分からな

いとなると…望み薄かもな。

インド 私のもうだめでした。子供を救うためだと父にかけ合っただんですが、アメリカ人の子供だと話した途端に…。

曹長 なんだ。

インド 断られてしまいました。

曹長 どういうことだよ。

インド 父は大つ嫌いなんです。アメリカ人が。

曹長 …なんだ、聞き捨てならねえな。

インド 私の妹は…。パキスタンのテロリストに殺されたんです。

曹長 …。

インド アメリカが対テロ戦争を起こした時に、私の父親はこれで妹の仇が討てると喜んでいました。…それが…アメリカはタリバンとの戦争に、パキスタンを協力させるために彼らのテロを黙認したんです。

曹長 …。

インド むしろ、インド政府はこの対テロ戦争のせいで、パキスタン国内のテロリストに何の手出しもできないようになりました。父はもう烈火のごとく怒りましたよ。それから父はアメ

リカを毛嫌いするようになりました。パキスタン人の次にアメリカ人が嫌いだと…。

曹長 そいつは…すまねえ事をしたな。

インド 別にあなたが謝ることじゃないですよ。

曹長 …。

インド …。

曹長 …じゃあ、どうする？

インド ええ。

曹長 娘は見つからねえ、金は用意できねえじゃな。

インド …せめて居所が分かれば…警察に通報するなり、NYの国連本部にかけ合うなりで  
きるんですが。

曹長 この辺りの腰抜け警察がマフィアとコトを構えるとは思えねえけどな。まあ、とにかく  
BJの野郎がそのスジあたってくれてるから待つてみるよ。

インド はい。

曹長 しかし、この近くの置屋にいないとすると…かなり遠くに連れて行かれたのかも知  
れねえな。

インド …。

曹長 おう…いや、そうと決まったわけじゃねえからよ。まあ、お前は仕事に集中してくれ。

テレビの取材が来たらそのことについても訴えようぜ。

インド ……はい。

インド、心ここに在らずといった風情で仕事に戻る。

曹長 ……そこ。

インド え？

曹長 ノリ、はみ出してる。

インド あ、すいません。

曹長 ……。

インド ……。

曹長 おい。

インド はい。

曹長 上下、逆。

インド あ、すいません。

曹長　しつかりしてくれよ。

インド　…すいません。

曹長　まあ、無理もねえけどな。こんな状況じゃ。

インド　…。

曹長　…仕方ねえ、ちよつと休憩にしようぜ。

インド　…はい。

曹長　あーあ。(曹長、タバコを吸いだす)

インド　何でなんでしょう。

曹長　あん？

インド　何で、インドみたいな貧しい国に生まれた僕が金持ちの家でぬくぬくと育ち、…どうして、アメリカみたいな豊かな国に生まれたあの娘が、こんなつらい目に遭わなければならぬでしょう。

曹長　そりゃあお前、運命だよ。

インド　…運命。

曹長　俺だってアラブの石油王の家に生まれたかったぜ。

インド　…。

曹長 貧乏人の家に生まれたら、インドだろうがアメリカだろうが中国だろうがそう変わらねえんじゃないかねえの？

インド じゃあ、つまり僕は運が良くて彼女は運が悪かったと？

曹長 それ以外何があるっていうんだよ。

インド ……実は。

曹長 おう。

インド 実は、世界はメチャクチャじゃないでしょうか。

曹長 ……あ？

インド 本当は……一人一人の人間は、純朴で、無知で、田舎の農村に生まれれば、何も知らな  
いまま、畑を耕して、眠り、ご飯を食べて、年をとり……死ぬだけの。それだけの存在な  
んじゃないでしょうか？

曹長 何が言いてえんだよ。

インド 人間が集まって、村ができて、町ができて、都会ができて、国ができる……その間に、何  
かが歪んで……どこか本来とは違う、悪い方向に人類全体が向かっている。そんなこと  
ないでしょうか？

曹長 けつ、ロマンティック野郎だぜ。じゃあ何か？貧乏な俺も、売り飛ばされたその娘も、そ

の…全人類が百姓だか羊飼いだつたらみーんな幸せだったつてののか？

インド 幸せかは分かりませんが、不幸ではなかった。

曹長 冗談じゃねえぜ、俺は南部の山奥出身だがよ。そういう山奥の静かな村つてな必ず一人や二人キチガイがいるんだ。俺が住んでる間にも殺人はあつたしよ、何でもあつたな…強盗、レイプ、自殺、虐待…驚いたのは隣の家の娘とオヤジがヤツてるのを目撃しちまつたときだ。…あいつらの家も農家だつたぜ、確か。

インド 強盗、レイプ…それで済むうちはまだいいじゃありませんか。

曹長 おいおい、いいのかよユセフがそんなこと言つてよ。

インド 強盗もレイプも、人間が直接、感じる事ができる罪ですよ。快感も苦痛の悲鳴も後悔も、全部その体に届くんです。

曹長 ああ、やめてくれよ、小難しい。じゃあお前は全世界が百姓で、たまにキチガイがレイプして、ああキモチイイ、でもちよっぴり後悔みたいな世の中がサイコーだと思つてることとか？

インド そうじゃありません。できればレイプも強盗も無いほうがいい。でもそういう社会は自己完結してることですよ。いい意味で。

曹長 ……？

インド 今の社会は人間の手に余るんです。ただスプレー缶を使っているつもりが地球大気を破壊する。使い捨ての食器を使っているだけで美しい森が消えてゆく。

曹長 何だおい、環境オタクか？その手の話はウンザリ。。。。

インド ただ肉を食べたい一心が、人間に回る穀物を家畜に回す。結果何億もの飢餓を生み出し、必死で貧乏から這い上がろうとお金をもうけると、かわりに何十億もの人間が貧民窟へ転落してゆく。目に見えないところで。

曹長 ……。

インド 僕のような人間が、知らない間にこの娘の幸せを吸い上げ、彼女は売春宿に売られたのかもしれない。

曹長 おい、待て、考えすぎだぜ。

インド ただより豊かに生きようとするのが世界中に不幸を撒き散らす。妹を殺したのも結局は僕ですよ。妹を殺したのはテロリスト、テロリストを作ったのは貧困、貧困を作ったのは僕ら金持ちなんだから。

曹長 いい加減にしろ！

インド ……。

曹長 この娘が貧乏なのは運が悪かったからだ！お前の妹が殺されたのは。。。だから、運が悪

かつたからだ！俺が貧乏なもの……まあ、運が悪かつたからだ！お前のせいじゃねえ。

インド そう言って自分を誤魔化し続ける気ですか。

曹長 なんだと！テメエ、なぐさめてやつてんのに。

インド 僕は金持ちに生まれたら死ぬまで金持ちに、貧乏に生まれたら死ぬまで貧乏に、そうなるように仕組まれています。

曹長 ……。

インド 上に立つ誰かが少しずつ、そうなるようにしたんです。あるものは法を動かし。あるものは実力者と結婚し。あるものは貧者の幸運を摘み取りながら……時間をかけて、ちよつとずつ。

曹長 ……後ろ向きな野郎だな。

インド あなたこそ、この絶望的な状態の最中においてどうしてそんなに楽天的なんですか？

曹長 そうだな……そりゃ俺たちには自由と……そしてアメリカンドリームがあるからさ。

インド ……。

曹長 世の中イヤなことばかりじゃねえ。ビル・ゲイツを見ろ、マライア・キヤリーを見ろ、ステイーブン・スピルバーグだつて忘れちゃ困るぜ。奴らは別に金持ちじゃなかったが、ここアメリカで億万長者になつたじゃねえか。

インド …で、あなたは？

曹長 …なに？

インド …少しは、生活が上向きそうなんですか？自由と、アメリカンドリームで。

曹長 …。

インド 毎年、ほんの一握りの億万長者が生まれる。もちろん、金持ち連中から少数の落伍者が出ますが。一握りの金持ちと、膨大な数の貧民。この割合はアメリカでもどこの国でも変わりません。ただ、アメリカの貧民は幸せです。浮かび上がるチャンスはほぼ0パーセントなのに在りもしない希望的観測をもてるんですから。

曹長 …。

インド 僕は責任を取らなくちゃいけないんだ。…数限りなく生まれてくる貧民の子供を、一人ぐらいは助けなければいけない。金持ちに生まれた一人として。

映像、映写される。曹長は一度花道を退場。インド、中央で体育座りをする。映像はある軍人の顔、大映し。仕官が被る帽子をかぶり、サングラスをかけてコーンパイプをくわえている。

将軍 ああ、君かね。この間紹介してもらった女性、アレはなかなかだった。次回はもう少し

手荒く楽しみたいもんだね、ははは。うん？メトロポリタン・コートの工場移転？ああ、そのことか。それがどうかしたのかね？いかにも、その件を大統領に進言したのはこの私だ。そう、ああいった事例はあの地域だけじゃないのだよ。我々はアメリカ全域において同じようなことを進めているのだ。

何故かって？そうしなければ誰がアメリカを守る？いいかね、現在の世界的な軍縮傾向の中、我々アメリカ軍も徴兵制から志願制に切り替えた。だが志願制となると、誰が手を挙げるかが問題となる。君、死ぬかもしれない戦場に自分から行きたいと思うか？そこで我々は考えた。まあ、考えたもなにも他に選択肢など無いんだが……戦争には……社会のお荷物……つまり、貧乏人の子供を送ろうと。ついては、我々も教育、給与などの面で彼らに報いることを決定した。彼らにとつてはいい交換条件のはずだよ。命を投げ出すことによつて、無知と貧困から逃れられるんだからね。だが、ここで必要な作業が出てくる。それは、定期的に貧民をつくらなければならないということだ。当然のことながら兵は死ぬ。老兵は去る。補充が必要なのだ。彼らには程よく路頭に迷ってもらわなければならない。そこで今回、産業界から希望を募り、工場移転やリストラを断行してもらった。もちろん協力してくれた企業には、税制や補助金面で優遇されるように我々が政界に圧力をかけた。まあ、こういう寸法だな。どうだい、理解いた

だけたかな？・

…さて、カタい話はここまでにしないかね。聞いているよ、君もかなりのスキ者らしいじゃないか。

カメラが引く。将軍、女性モノの下着を身につけている。

将軍 さあ、楽しもう。

映像が切れる。ラジオの音、F. I.。曹長、紙袋を抱えて舞台に入ってくる。

曹長 ただいま。

インド …。

曹長 おい…。

インド …。

曹長 …重症だな。

曹長、紙袋からジャーキーを取り出しインドに投げる。

インド ……？

曹長 食べ。

インド ……食欲ないです。

曹長 ……いいから食べ。

インド ……この前説明しませんでしたっけ？僕は…。

曹長 豚だよ。

インド え？

曹長 ポークジャーキーだよ。牛、食べねえんだろ。

インド ……。

曹長 元気出せ、アメリカのポークジャーキーは一味違うぞ。

インド ……ありがとう。

インド、ポークジャーキーにかじりつく。

曹長 どうだ。

インド ……おいしい。

曹長 ……まあ、なんだ。その娘もきつとどこかで生きてる。お前がくたばつちまったらその娘を助けるヤツは誰もいないんだからな。

インド ……曹長。

曹長 しつかり食え。

インド ……はい。

曹長 アメリカのポークジャーキーは最高だろ。

インド 確かに一味違う。

曹長 こいつはこの辺の豚を使ってるんだ。地元限定つてやつだな。

インド ……なんていうか、変わった味ですね。

曹長 残念なこととその業者も潰れちまったんだがな。グローサリーの棚にあったのはこれが最後だ。

インド そうですか、じゃあますますレアモノですね。

曹長 そういうことだな。…見ろよ、なんかラベルに面白い猿の絵が描いてあるだろ。

インド ええ。

曹長 このラベルが目印なんだよ。…この猿、なんつつたかな。これ、ネットかなんかで売ったから高値つくかもしれないねえぜ。

インド まさかあ、ジャーキーですよ。

曹長 おいしい、浅いぜインド人。アメリカじゃ何が流行るかわかんねえ…。

ここで、ラジオが切れてニュースが流れる。

ラジオ ここで臨時ニュースをお伝えします。一時間ほど前になりますが、男性の遺体が発見されました。男性は遺書を残しており、遺書の内容は警察の意向で公開されました。これによりますと、男性は養豚場を経営しておりましたが、近所の工場移転のあたりを受けて経営が思わしくなく、多重債務に陥っていたようです。調べによりますと、男性は地元のマフィアから非合法で児童売春婦の遺体処理を請け負っていた形跡があり…えー、ここから重要なんです、遺体をチェーンソーでバラバラに切り刻み、加工してポークジャーキーとして出荷していた模様です。…今、私、実物を手にしているんですが、包装袋に変わった猿の絵が描いてあるジャーキーです。地元ではテング猿印のポークジャーキーと呼ばれているそうです。今、お手元にある方は手をつけず、速やか

に近くの警察署に届けてください。

なお、男性の死については不審な点が多く、警察は自殺、他殺の両面から捜査を進め……。

インド、ラジオの音をしぼる。

曹長 そうだ、テング猿……。

インド うあああああああ！

曹長 ……。

インド あんたなんてモノ食わせるんだ！

曹長 だって、知らなかったんだもん。

インド うあああああ！ 僕はこの娘を、この娘を食へちゃったかもしれない！

曹長 おいおい、落ち着けよ。連れて行かれたばかりで殺すわけないだろうが。

インド だって、だって……。

そのとき、曹長の電話が鳴る。曹長、電話を取る。

曹長 おう、BJか。どうだった？うん、うん、そうか…そりや苦労かけたな。おう、またよろしく頼むぜ、じゃあな。

曹長、電話を切る。

曹長 ……良かったな、見つけたぜ娘。(ポークジャーキーを見せる)

インド うわあああああ！

曹長 いやあ、すつきりしたぜ、疑問が消えて。(ジャーキーをかじる)

インド あんた、なにまだ食ってるんだ！

曹長 だつてもつたいねえだろ、貴重な食料を。

インド やつぱりあんたらアメリカ人はどうかしてる！

曹長 そうか？

インド うわあああああ！うえええええ！(ダンボールに頭を突っ込んで嘔吐する)

曹長 おいおい、汚ねえな。

インド ……はあはあ。

曹長 …いやあ、こういう結果になるとは俺も予想してなかったぜ。

インド …。

曹長 まあ、こうなった以上は仕方ねえ。ここからは俺と一緒にその娘の弔い合戦に…。

インド 失礼します。

インド、出て行くこうとする。

曹長 おい、どこ行くんだよ！

インド これからNYに行きます。

曹長 NY？

インド 国連本部に訴えるんです。二度とこんなことが起きないように。

曹長 ストライキはどうすんだよ。

インド そんなもん、あんた一人でやってろ！

曹長 そんなもんとは何だ！そんなもんとは！

インド こんなこといくらやったって効果なんてありませんよ。

曹長 テメエ、調子に乗りやがって。このガキを捜すのに俺だって協力してやったらうが！自分

の用事が済んだらハイさようならか？ふん、薄情なんだな、インド人つてのは。

インド …。

曹長 どうした、早く行けよ。

インド …。

曹長 ほら、行け！

インド …分かりましたよ！

インド、花道から出て行く。曹長、インドのいた位置に戻り、箱作りをはじめめる。曹長、ぶつぶつ不満を言いながら箱を組み立てる。インド、ほどなく戻って来る。

インド お、表…表。

曹長 あん？何しに戻ってきやがった。

インド 表…銃、銃。

曹長 もう何の用もねえだろうが。つき合わせて悪かったぜ、ほら、行け。

銃声。インドと曹長、花道の方向を見据える。映像映写。画面には派手な星条旗のネクタイ

をした男が登場する。背景に星条旗、BGMは星条旗よ永遠なれ。

大統領 おお、君かね、久しぶりじゃないか。この間紹介してくれた女の子、あれはなかなかだった。うん、激しかった。今度はもうちよつと若い子がいいな。うん、5、6歳がいい。さて、今日は何の用だったかな…確か…そう、アメリカ国内の計画的工場移転の話だったね。うん、まあ座りたまえ。しかし君が政治の話をしに来るとはね。どういう風の吹き回しだ？確かに、各界からの要請で、私は国内の大規模リストラと工場移転に同意した。だが、だから何だというんだ？多くの人は、大統領が独裁者のように巨大な権限を持っていると思っておるようだ。しかし実際はそうではない。なぜなら大統領というものは、企業や政治団体、ねんころ懇ねんころにしているマフィアからの後押しが無ければ存在できないのだから。なんとなれば私が拒否しようと、彼らが望めばこの話は進むし、都合が悪ければスキャンダルでも何でもでつち上げて私を失脚に追い込めばよいのだ。最悪、私を殺すことも彼らは辞さないだろう。

…一体、この国の主は誰なんだろう。私じゃないことだけは確かだが。

…当然、この国の主は国民。しかし、連中はいかさま正直すぎるくらいがある。目

の前にご馳走があれば食べてしまう。いい女がいれば抱いてしまう。マリファナがあれば吸ってしまうし、石油が出ている土地があれば分捕る。ワシントンのインテリ官僚がいかに遠謀深慮を巡らそうとも、ウォールストリートの敏腕トレーダーが、世界の富を切り回そうと、彼らはアメリカの本音を実現しているに過ぎないんだよ。ご大層な理屈を並べるワリにね。

私を支持している企業やらマフィアやらだつて、貧しい庶民を蹂躪しながら、結局はその庶民の要請で動いているんだよ。無論、ちよつとばかり自分の本音を上乗せして。

ああ、全米の工場移転にあたつて、私も私の本音を上乗せさせてもらったよ。僕がペドフィルだつてことは君も承知だろう？ 移転工場の一つに、極上のロリータがいるという話を聞いてね。ああ、しっかり頂いたよ。後処理は組織に任せたから……その後は知らんが。ああ、この事実を知っている人間も一人残らず消してもらうことになる。良心の呵責？ あるよ。でもいまいちピンと来ないねえ。まあ、私も中東で死んでゆく兵士の姿に涙しながら、ガソリンが高いとぼやく平凡なアメリカ人の一人だということかな。さあ、ではもういいかね。

大統領、銃を取り出す。

大統領 君は知りすぎた。

画像が乱れる。映像が切れる。ノイズとともに、この映像の音はラジオとクロスオーバーする。曹長とインド、ラジオに聞き入っている。

ラジオ 立て籠もっているテロリストは白人とアラブ系の男二人です。男らは建物内に大量の銃器類を持ち込んでおり、現在周囲を取り囲んでいる州警察と膠着状態が続いています。州政府の発表では、数週間前、イスラム原理主義グループが当局に犯行声明を送りつけてきており、この警戒態勢を解いた矢先を狙った犯行であるということです。

また、この報らせを受けて、ホワイトハウスも先ほど談話を発表しました。これによりますと、犯人は大量破壊兵器を持ち込んでいる疑いがあり、これに対処するため、対テロ特殊部隊の投入を決定したとのことです。周辺にお住まいの方は危険ですので、警察の誘導にしたがって…。

インド、スイッチを切る。

曹長 おいおい、どうする。軍が出てきちゃったよ。

インド 僕はイスラム教徒じゃない！

曹長 俺だつてテロリストじゃねえよ。

インド ああ・・・早く出て行けばよかった。

曹長 しかし奴ら、そんなに俺らのストライキを潰したいのか？

インド もうそんなレベルの問題じゃないですよ！本気で勘違いされてるんですよ。テロリストと！

曹長 まったく、いい迷惑だぜ。変なインド人が迷い込んできたお陰だよ。

インド それはこっちの台詞ですよ！僕はただ不幸な子供を救いに来ただけなんだ！それをこの変なオッサンにつかまっただけで・・・。

銃声。

インド うわあ！

曹長 また撃ってきたよ。

インド 膠着状態なんてウソばかりじゃないか！

曹長 おう、一方的に殺そうとしてるな。

インド はやく誤解を解かなくちゃ！

曹長 誤解、解くつて…どうするんだよ。

インド …。

曹長 出す！アイデア！

インド お父ちゃんに電話！

曹長 お前そればつかな。

インド 父にインド政府筋から手をまわしてもらいます。その上で…。

銃声。

インド うわ！

曹長 能書きいいから早くしろ！

インド、電話をかける。

インド あ、お父ちゃん…着信拒否になってる。

曹長 オヤジさんまだ怒ってるのか？

インド そうみたいです。

曹長の携帯に着信。

曹長 おう、BJ?なに、今とりこんでるんだけど。…マジかよ。おう、おう、分かったサンキ

ユ…BJからだ。

インド あの人マメですね。

曹長 地回りのマフィアが動いたらしい。

インド マフィア？

曹長 俺たちが売春窟かぎまわってるのがバレた。

インド そんな…ヤクザにまで狙われるなんて。

曹長 それから…。

インド それから？

曹長 マファイアども、ここのオーナーとつるんでやがる。

インド !

曹長 俺たちがいたんじや施設の撤去が進まないからな。

インド …袋叩きですね。

曹長 軍隊に捕まったほうがいいかもしれないぜ。

インド 何言ってるんですか!

曹長 軍隊なら少しは言い訳を聞いてくれるからよお。マファイアに捕まったら即死刑だ。

インド …。

曹長 …まあ、結局死刑かもしれないけど。

インド …投降しますか。

曹長 …おう。

インド・曹長 降参します。テロリストじゃないです。

銃声。

インド 全然聞いてくれないじゃないですか。

曹長 くそう、降参するつて言つてんのに。

インド ……万事休すですね。

曹長 ……そうだ。

インド ……何か名案が？

曹長 グッドアイデアだ。何で今まで気がつかなかつたんだろう。

インド 何ですかそれは！

曹長、インドに銃を突きつける。

曹長 死ね。

インド ……どういうことですか。

曹長 俺がストライキをしていたら、突然テロリストが侵入してきた。ヤツは俺を人質にこの社員寮に立て籠もつた。

インド ……。

曹長 俺はヤツの隙を衝いて撃ち殺した。そして、それを手土産に投降する。

インド ……そんな。あなただつてテロリスト扱いされてるんですよ！

曹長 …お前はイエローモンキーのイスラム教徒、そして俺は白人だ。お前を殺して説明すればみんな分かってくれるさ。

インド 僕はヒンズー教徒だ！テロリストでもない！

曹長 そんなこと知るか。要するに、アメリカ中がお前をアルカイダだと思いこんでくれればそれでいい。そして、俺がそいつをやっつけたヒーローだ。

インド …見損ないましたよ。

曹長 このことで、俺がやっていたストライキが注目されれば、この工場の突然の移転も、そのせいでどれだけの連中が首切りされたかも明るみになる。俺の再就職先も決まるかな。

インド …。

曹長 まったく願ったりかなったりだ。お前が迷い込んでくれたおかげだよ。…じゃあな。

銃声。インド目をつぶる。曹長、身をかわし花道を見る。インド、自分に向けられた銃声ではないと知り、走り出す。

曹長 待て、逃げるな。殺すぞ！

インド だつて逃げなきゃ殺すでしょ！

曹長 逃げても殺す！逃げなくても殺す！

インド じゃあ逃げますよ！

曹長 …俺のために死んでくれ。

インド …。

曹長 お前、このまま出て行つても確実に蜂の巣だ。そうすれば俺だつて助からない。しかし、ここでお前が、俺に撃たれて死んでくれれば…俺は助かる。

インド …僕に…テロリストとして死ぬっていうんですか？妹をテロリストに殺された僕に。

曹長 だが、お前はユニセフだろうが！ユニセフは貧民を助けてくれるんだろ？

インド …いや、子供限定ですから…。

曹長 心が狭えな、何だ、結局は金持ちの道楽でボランティアやってるのか？いざとなりやあ自分の命が惜しくてしようがないんだろが。

インド …。

曹長 なあ、助けてくれ。俺をボランティアしてくれ。俺は今、お前の命が必要なんだよ。お前、金持ちの家に生まれて、食い物の心配もせず、ここまで生きてこられただろうが。

生まれてから今まで貧乏沼地を這いずり回ってた俺が、あともう少し続きの人生が欲しいと言ってるんだ。もういいだろう、お前は十分に恵まれた生活を送った。だからその命、残りは俺にくれ。

インド …。

曹長 死んでくれ！

インド、「いやだ、いやだ、死にたくない！」などと叫びを上げながら逃げ出す。曹長「死んでくれ！」と言いながら追いかける。二人、幕間に消えるが2〜3秒ほどして戻ってくる。口々に、「いない！いない！なに？どうして？」などと言い合い、喜んでいる。

曹長 ……どういことだ？

インド 知らないですよ！

曹長 信じられるか？あんだけいた軍隊が…一瞬でいなくなるなってよお！

インド そうだ、ラジオ！

インド、ラジオをつける。

ラジオ ……ということですよ。繰り返します。先ほど、州政府ビルがテロリストによって爆破されました。州政府ビルは現在も炎上中で、警察、消防、および州軍が、挙げて事態の沈静にあたっております。なお、先ほど来お伝えしておりました、自由と平等兄弟社員寮立て籠もり事件の続報ですが…社員寮を取り囲んでいた軍は、先ほどの州政府ビル爆破を受けて、撤退を余儀なくされました。しかし、その途中、マフィアの集団と遭遇し現場は大混乱となっております。多数の死傷者が出た模様で、州政府は残って社員寮を監視し続けていた部隊にも撤退を指示。警察に引き続きの監視を…。

インド、ラジオを切る。

インド ……テロリストに助けられるなんて。

曹長 よし、さつさと逃げるぞ！今度は警察が来る。

インド ……はい。

曹長 何やってるんだ！死にたいのか！

インド ……さつきあんた僕のこと殺そうとしてたじゃないですか。

曹長 事態が変わった。

インド 勝手…ですね。

曹長 味方は徹底的に利用して、敵は殺す。そうやってアメリカの貧民は生きてるんだ。これからはお前もそうなる…。

インド …。

曹長 逃げるぞ。

インド、曹長の前に立ちはだかる。

曹長 なんだ、どけ。

インド …謝ってください。

曹長 あん？

インド このままじゃ済ませませんよ。

曹長 なんだ、そんなに腹が立ったのか？はい、すまんすまん。

インド …もつと、ちゃんと。

曹長 …どけ。

インド …イヤだ。

曹長 テメエ…本気で殺すぞ。こんなトコでウダウダしてたらまたすぐに逃げ出せなくなるんだぞ。

インド 確信したんだ。

曹長 …。

インド この手紙の娘や妹を殺したのはテロリストでも、僕ら金持ちでもない…アメリカ人だ。

曹長 …なんだおい、八つ当たりか。そういうのは後で聞いてやるからそこを…。

インド 謝れ！

曹長 …おい、落ち着け。

インド 僕は落ち着いてる。…ずっと引っ掛かってだったんだ。

曹長 …。

インド 妹が殺されたのは、自分のせいだと…ずっと思ってきた。彼女が亡くなる前の僕と来たら好きなときに好きなものを食べ、寝たい時に眠る。…遊ぶ金にも事欠かない、そんな生活に何の疑問も抱かない男だった。だが、妹が亡くなった時に気がついた…自分の足元に、僕が幸福を吸い上げた貧者たちの死屍が累々と積み重なっていることに。

曹長 …。

インド 何度も言いますが、テロリストを生むのは結局のところ貧困です。人間は死よりもつらい生活を強いられると、死を恐れなくなる。…僕はそれから、自分の生活に後ろ暗さを感じるようになりました。…僕のこの弛たるんだ生活が、領民の搾取の上に成り立っているからには。

曹長 しかし、そりゃあ、お前が悪いんじゃないよ…

インド 黙って聞け！

曹長 …。

インド …程なく、僕は父の反対を押し切って国際ボランティアに参加しました。…紛争地帯にも行きましたよ。目の前で死んでいく子供達が、皆僕を責めているようでした。

曹長 …。

インド だが、ここ、アメリカに来て、それは全て間違いだと言うことに気がつきました。あなたが教えてくれたんですよ、曹長。

曹長 …ほう、そりゃ良かったじゃねえか。

インド このアメリカつてところは、どの紛争地帯よりも最悪だ。

曹長 …。

インド　一握りの金持ちが国の富を独占し、利益追求のためには国民の生活など歯牙にもかけない。国民も国民だ。彼らに幸福も財産も吸い上げられていることに全く気付かない。気付いても何も言えない。何もできない。

そして最も迷惑なのは、その不幸を自由と民主主義のラベルを貼り付けて他の国に輸出していることだ。軍事力で無理やりに。しかもあんたらはそのことに奇妙な優越感を持っている。

曹長　：：わかったよ。もう結構だ。迷惑かけたな。

インド　開き直らないで下さい。

曹長　ああ、もう！いい加減にしろ！早くしないと本当に逃げられなくなるんだよ！

インド　逃げたい？：：アメリカのせいで、他ならぬあんたらアメリカ人のせいで僕の妹は死んでしまったというのに！

曹長　テメエ！被害妄想もいい加減にしやがれ！俺と、お前の妹が死んだことは何の関係も無いだろ。

インド　冗談じゃない！さつき説明したろう、頭悪いのか？テロリストは貧困から生まれるんだ！あんたらは反共産主義と言ってアフガンに銃を、ベトナムに枯葉剤をばら撒いた。日本に原爆を落とし、ドイツを東西に、朝鮮を南北に引き裂いた。気分次第で独裁者

を叩き、イラクをメチャクチャに破壊した。

分かつてるよ、その国の国民を救うためだろ？はは、だが、あんたらが首を突っ込んだ戦争で本当に幸福になった国が一つでもあるか？どの国も人民は死に、国土は荒廃し、経済は大混乱。その後上手く行ってる国は一握りだ。それだってアメリカのおかげかどうか怪しいもんだけどね。

曹長

…。

インド

おかげさんで、わが隣国、パキスタンも銃天国。政変続きで経済もガタガタだが、これもアメリカがちよっかい出してくるせいだ。

…いいですか、テロリストを量産してるのは、ほかならぬアメリカなんだ。僕はそれでも、アメリカを動かす指導層が悪いんだと思っていましたよ。だが、あんたの…あんたの身勝手さを見て納得した。これは、アメリカ人の気質なんだと。

インド、ポケットから包み紙を取り出す。

曹長

何だこれ？

インド

プラスチック爆弾です。

曹長  
！

インド (携帯を取り出す)この番号にかければ即起爆します。

曹長 お前！

インド これで何万分の一かでも妹の仇を討てますよ。

曹長 テロリストが！(曹長、銃を構えようとする)

インド 動くな！

曹長 …。

インド 動けばすぐにでも爆破しますよ。

曹長 …。テメエ。

インド …。謝ってください。謝ればあなたは逃がしてあげます。

曹長 …。

インド さあ、銃を棄てて！

曹長、ややあつて、渋々銃を棄てる。

曹長 …。まなかつた。

インド …うん？

曹長 お前を殺そうとしたことも、お前らの国に迷惑かけたことも謝る…すまなかつた！

インド …結構。

曹長 …。

インド …ふふ。

曹長 ？

インド はははははは！

インド、包みを開く。中にはお菓子が入っている。

曹長 …。

インド インドの…お菓子です。

曹長 テメエ！

インド …手紙の娘に上げようと思ったんですよ。おいしいですよ。食べます？

曹長 この非常時に下らねえことしやがつて！

インド だってこうでもしないとあなた謝らないでしょう。

曹長 …。

インド いいですよ、これで十分です。妹も浮かばれますよ。

微かにサイレンの音が聞こえる。

曹長 やべえ！サツだ。ちくしょう！テメエがモタモタしやがるから。

インド そんなこと言ってる場合じゃないでしょう。早く逃げなきゃ。

曹長 …おう！

曹長、花道に出るが、インドは立ち止まったまま。

曹長 何してるんだ！来い！

インド …ここから逃げ出しても、お尋ね者ですね。

曹長 それがイヤなら残るんだな…で、逮捕だ。どうせまともな裁判なんて受けられねえぞ。

電気椅子決定。

インド …逃げます。

曹長 よし……とりあえずメキシコ国境まで逃げるぞ。あとのことはあとで考える。

インド ……はい！

曹長 よし、GO！

曹長、花道から走り去る。着信音、インド、携帯電話を取り出す。

インド はい、では私も撤退します。陽動作戦、完了しました。いろいろと不測の事態も起こりましたが……はい、現場に居合わせた白人と少々遊んでやりました。はい、すぐに始末します。はい……ははは……危うく豚肉を食べさせられそうになりましたよ……はい、携帯は即刻破棄します。アラアは偉大なり。

インド、携帯を投げ捨てる。曹長、花道に顔を出す。

曹長 何やってんだよ！行くぞ！

インド はあい、待ってくださいよお。

曹長 もたもたしてると殺すぞ。

二人、花道の幕間に消える。その後、テロリストの犯行声明が流れる。その中でカーテンコール。

#### 犯行声明

我々は、世界の悪の元凶である犯罪国家アメリカに、本格的な聖戦を開始することに決定した。今回の州政府ビル爆破は、その先触れである。唯一神アラーを信じない貴様らは、我らの資源を略奪し、国中に武器を振りまき人々を殺した。また、軽佻浮薄で破廉恥極まりないアメリカ文化を我が国に広め信仰を踏みにじった。これら数々の所業は許しがたく。我々はアメリカ人が一人残らずこの世から消え去るまで攻撃の手を緩めることはないだろう。また、最後に、我々の計画を遂行するに当たり、自由と平等兄弟社員寮において、敵の軍を引き付けてくれた同志に感謝の言葉を送りたいと思う。

アラーは偉大なり！

完